

審査の結果の要旨

氏名 楊 瞳

高等教育における教養教育の改革は、大学進学率の高まりに伴う教育の質の確保の必要性和高度化する専門教育との均衡を図る観点から国際的に課題になっている。中国においても1990年代以降の高等教育の大衆化の進展と専門学部制の特性から、教養教育改革の必要性が政策的にも強調されるようになったが、どのように改革を実施していくかが大きな政策課題になっている。しかしながら、中国の教養教育改革の過程及び内容に関しては、ほとんど実態が明らかにされていない。

そこで本論文は、中国の大学における教養教育改革について、同じ都市部に位置する総合大学と単科大学各1校の事例研究に基づき、その背景、政策の大学への影響と大学内部での決定メカニズムをカリキュラムに焦点をあてて分析するものである。序章は、教養教育の概念の整理及び先行研究のレビューを行い、カリキュラム改革の視点から影響する要因として外部要因（政策）と内部要因（機関と課程）を特定し、内外要因が教養教育カリキュラムの構造と内容及び教員の資源配分を規定する分析枠組みを設定する。第1章は、中国の高等教育制度の教育内容の変化を近代以降について整理し、教養教育と専門教育がどのような関係にあったか、現在の中国における教養教育の位置づけを歴史的に分析する。第2章は、1990年以降の教養教育政策の変遷と教養教育改革の経緯について整理し、外部要因である教養教育政策が内部要因の大学の理念なりガバナンス等とともに教養教育カリキュラムの構造と内容にいかなる影響を与えることになるかにつき考察する。続く第3章と第4章は、先に設定した概念モデルにしたがい個別事例による2006年度から2012年度の教養教育改革期に焦点をおいた実証分析に当てられる。第3章は、単科大学（A大学）を第4章は総合大学（B大学）を対象に、それぞれについて教養教育改革の過程と結果につき、具体的な意思決定組織と実施組織がどのようになっていて、教養教育の必修及び選択の科目講義・時間帯設定、教員配置の設定がいかに変化してきたかを詳細なカリキュラム分析と関係者へのヒアリング調査を通じて分析する。そして、外部要因たる政策は、必修部分についてA・B大学ともカリキュラムの構造・内容及び教員資源配置に、また、選択部分にも領域のバランスに強い影響（制限）を及ぼしていることを確認する。反対に内部要因については、理念や人的資源は必修に、理念、人的資源及び実施体制が選択部分に影響を与えていることを示している。終章は、結論と得られた政策的含意と今後の課題が示される。本研究は、概念モデルを設定し、その枠組みにそって特性の異なる2大学の事例研究を通じて政府の政策が共通の制約となると同時に個々の大学側も一定の裁量性があり、理念や人的資源の差が教養教育の提供体制や内容の違いを生じさせていることを実証的に明らかにした点が評価できる。

よって、本論文は博士（教育学）の学位を授与するにふさわしい水準にあるものと判断された。